

F-24 家庭経営の変動に関する生活史的研究(VI)

衣生活(3) 被服管理の実態

聖和短大。石川妙子 雁部愛 福島大教育 高橋キヨ子 外5名

目的 本報は衣生活—(a)と同様の目的を、衣生活管理の形態の変化の面から究明しようとして、湖南町地域における被服管理の形態が各年代及び時代においてどう変化したか、その実態を調査したものである。

方法 資料は昭和47年8月の聴取り調査及び47年12月～48年1月のアンケート調査の結果を基盤として、48年4月に補足聴取り調査をしたものである。その結果を対象者の範囲で年代別・時代別に被服管理のうち調達と整理の面から考察した。

結果 1) 現在70～80才代の人が嫁の時代即ち大正初期には一家の衣類はほとんど自家縫製で、材料は一部を生産し一部を購入した。女性達は農閑期には夏は冬着と寝具の手入、冬は作業着の調整と機織りなどに励んだ。(60才代の人達についても即ち大正末期にも大きい変化は見られない。2) 50才代の主婦が嫁の時代即ち昭和10年頃から絹を除いては材料の生産は漸次なくなり、下着類から既製品を使用することが多くなった。しかし作業着その他の自家縫製は続きその修理にはミシンを使用する等の変化もみられた。3) 40才代の人嫁の時代は衣料品の逼迫時代であり、自家用の米として羊毛・絹等の生産や機織りが復活したり衣類の再生更生に多くの労力が費やされた。4) こうした管理の形態は昭和25年以後急角度に変化し、洗濯機の導入、新織機製品の出現、クリーニング依頼の増大等による衣生活の変容が管理にも大きな変化をもたらした。